

## 当科で経験した小児慢性咳嗽の患児における原因疾患の検討

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院小児科

小松原亮 成瀬徳彦 小倉和郎 平田典子 鈴木聖子 安藤仁志 宇理須厚雄

藤田保健衛生大学医学部小児科

田中健一 犬尾千聡 近藤康人 柘植郁哉

**【目的】** 小児慢性咳嗽の原因は多岐に及ぶが、日本で小児慢性咳嗽の原因疾患の頻度について詳しく報告したものはほとんどない。今回当科で経験した慢性咳嗽の患児の原因疾患の頻度について検討した。

**【対象】** 2006年1月～2009年3月の間に8週間以上持続する咳嗽を主訴に当科を受診し、慢性咳嗽と診断された患児32名（男児13名、女児18名、平均年齢8歳5ヵ月）。

**【結果】** 原因疾患として咳喘息が21名（66%）と最も多く、副鼻腔気管支症候群3名、副鼻腔炎1名、心因性咳嗽2名、感染症4名、喉頭アレルギー1名だった。咳喘息と診断された患児が半数以上であり、さらに咳喘息の患児について検討を行ったところ、咳喘息のみと診断された患児が11名（約52%）、咳喘息に感染症などの疾患を合併していると診断された患児が10名（約48%）と約半数にみられた。

**【結論】** 今回の調査でみられたように、小児慢性咳嗽の診断を行う上で難しい点として、原因疾患が1つでなく、いくつかの疾患が合併している患児が少ないことがあげられる。慢性咳嗽の診断、治療を行う上で疾患の合併を念頭に置き行うことが重要である。